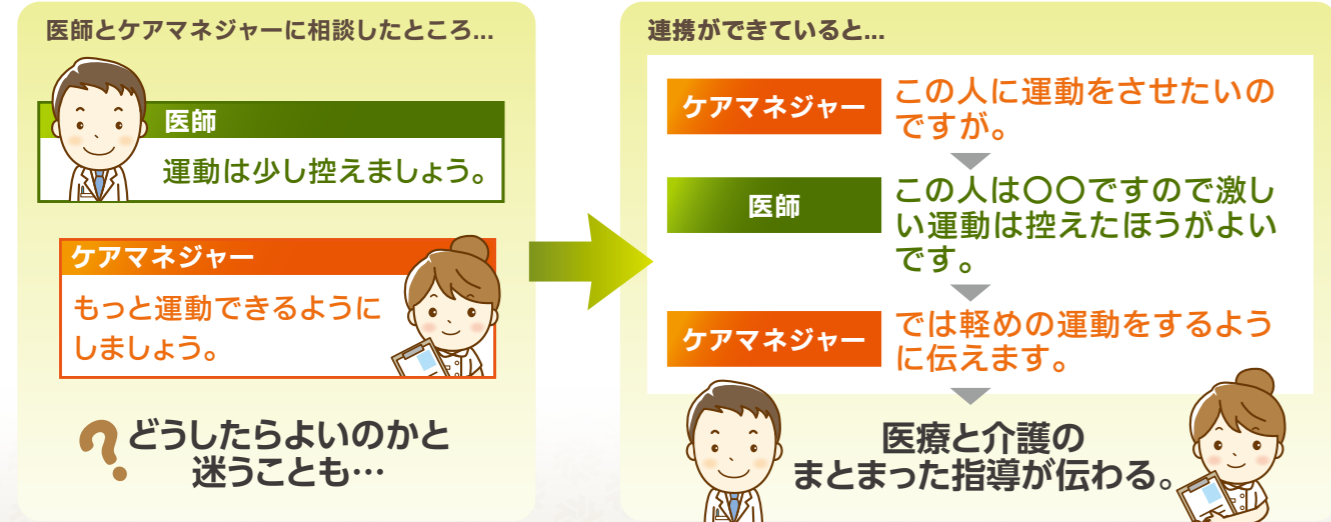


医療と介護の連携が進むとどうなるの？

患者・利用者の日々の状況が医療職（医師、看護師など）と介護職（ケアマネジャー、ヘルパーなど）で共有されるので、どの専門職に相談しても医療と介護を含めた話ができます。状況に変化があった時は、迅速に医療職・介護職の双方に状況が伝わり、適切な医療・介護サービスを受けることにつながるから、在宅で最期まで暮らし続けることが可能になります。

例えば



連携を目指して活動している

在宅医療・介護連携推進プロジェクトチーム

かけそばネット



かけそばネットのロゴマーク
「人」という漢字を使い、皆が顔を合わせて円を書くことで、ケアシステム全体の和（輪）をイメージしています。

「いつでも“かけ”つけます“そば”にいます」を合言葉に、地域の皆さんに寄り添う専門職が集まるかけそばネット。平成29年8月に可児市と御嵩町の合同で始まりました。

さまざまな専門職が集まって事例検討や研修を行っています。在宅医療や介護について知識を深めるだけでなく、医療（医師、歯科医師、薬剤師、看護師など）と介護（ケアマネジャー、ヘルパー、地域包括支援センターなど）の専門職が顔の見える関係づくりをしています。

こんな活動をしています



住民向け講演会

専門職が、入院から在宅生活への医療介護の連携を紹介



専門職の研修会

人生の最終段階における医療・ケアのあり方について勉強



あんどうクリニック
院長 安藤 文夫 さん

専門職のみなさんへ かけそばネットに参加しませんか！

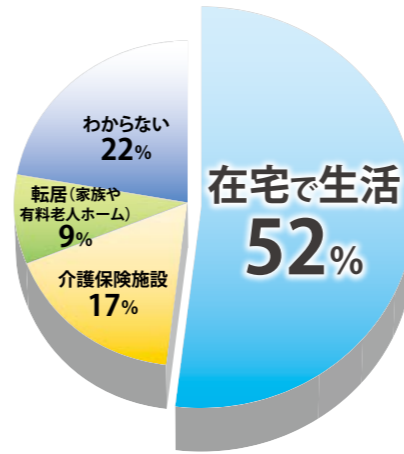
これからの在宅医療・介護には我々専門職が連携してそれぞれのケースに対応していくことが大切になってきます。

医療、介護の現場で活躍する専門職のみなさん、患者さんや利用者さんの望む生活を、私たちと一緒に実現しませんか？毎月第2水曜日の夜に活動しています。みなさまのご参加、お待ちしております。（次回は7/10（水）に医療・介護ワンコイン交流会を開催します）

問合せ先 かけそばネット事務局（高齢福祉課 地域包括ケア推進係内）

住み慣れた地域で暮らすために

問 高齢福祉課



高齢化と核家族化が進むなか、高齢夫婦の2人暮らしや、高齢者独居などは珍しくなくなっています。医療・介護が必要になっても、自宅などの住み慣れた地域で安心して暮らせるように、在宅医療や介護の連携に向けた“公助”の取り組みが進んでいます。

問 介護が必要となった場合、その後の生活をどうしたいですか？

65歳以上を対象に平成29年1月に実施した「高齢者の生活に関するアンケート調査（有効回答数：2,748）」では、自分に介護が必要となった場合でも在宅で生活したいと望む人が半数を超えています（左図）。

在宅医療・介護 そのために必要な存在とは？

在宅医療・介護は、自宅などでの生活を望む人が、病気などのために継続的な診療が必要で、通院による療養が困難な場合や、生活をするのに定期的な支援が必要な場合に対象となります。それぞれの状況に応じて、医師やケアマネジャーなど多くの専門職の存在は欠かせません。

医師

日常的な診療のほかにも、健康相談などもでき、必要に応じて専門医を紹介しています。



訪問看護師・看護師

医療的処置や健康状態の観察を行い、療養上の支援をしています。



歯科医師・歯科衛生士

虫歯の治療や入れ歯の調整をはじめ、口の中の健康管理全般を行っています。



薬剤師

薬の説明や服用方法・副作用などの相談や、服用の支援をしています。



ケアマネジャー（介護支援専門員）

自宅でのどのような支援が受けられるか、生活全般について相談・サービスの調整などを行っています。



患者・利用者 療養、介護を必要とする人

医療ソーシャルワーカー

病院にかかっている人やその家族の経済的、社会的、心理的な問題の相談ができます。



地域包括支援センター

保健師、看護師、社会福祉士、主任ケアマネジャーなどで構成する高齢者専門の相談窓口です。



ヘルパー（訪問介護員）

入浴、排せつ、食事など日常生活上のお世話やアドバイスをしています。

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士

歩く、食べる、話すといった日常生活の動作や機能ごとに、リハビリテーションを行っています。